

令和3年度第1回さいたま市行財政シンカ推進会議 議事要旨

日時

令和3年12月20日（月）10時35分～12時00分

場所

さいたま市役所 2階 特別会議室

出席者

（委員）

田矢委員長、伊藤委員、高橋委員、沼尾委員、前野委員、吉浦委員

※伊藤委員、沼尾委員及び前野委員は、オンラインにより出席

（さいたま市）

市長、高橋副市長、都市戦略本部長、財政局長、情報統括監、行財政改革推進部長
ほか

次 第

- ・ 委員長の互選、職務代理者の指名
- ・ 市役所経営方針、財政状況の説明
- ・ DXの推進

議事概要

- ・ 委員の互選により田矢委員を委員長に選出
- ・ 田矢委員長が前野委員を職務代理者に指名

【各委員の主な意見】

- ・ 本会議の設立趣旨を踏まえれば、「進化」と「深化」の二つの軸をもって、施策のあり方を議論すべき。
- ・ DXを通じて、市の財政をどう考えるかという視点は絶対に必要。業務の効率化と併せて、こうした視点も持つべき。
- ・ 例えば、教育面で市独自のスタイルを生み出していくと、個性のある子ども達が集まってくる。次代を担う個性のある子ども達が我々と違った発想で物事をつくり上げていくことで、さらに市が発展するきっかけとなるのではないか。
- ・ フリーアドレスや週休3日制といった特徴ある施策に取り組むためには、まず何すべきかについて考えることが、魅力的な市をつくることにつながるのではないか。

- DX とは、デジタルツールを導入することが目的ではなく、デジタルツールを使って今までできなかった業務を改善することや不要な業務を見つけ出すことが目的である。
- デジタル化の恩恵は、高齢者や障害者にこそあるべき。デジタルツールの活用により、障害者や高齢者の社会参加を促進する視点が大事。
- 職員が市民に寄り添う場面を増やすことが DX を推進する本来の目的。
- デジタル化を考える場合、住民サービスの効率化という視点に加えて、どのように住民の意見を汲み取り、その上でどのように施策や事業をつくり上げるのかというプロセスを総合的にデザインする視点を持つことが大切。
- 行政サービスに対する市民の意識や意見を、DX を活用して分析したうえで、施策につなげていく EBPM の考え方が重要。
- 財政も IT も Well-being もうまく連携しながら、具体的に良いものができればよいのではないか。
- デジタル化された資料が、利用者の様々な情報環境でも閲覧できることを、確認できる程度に職員の IT スキルを向上すべき。
- 電子申請は、入力項目の自動チェックが可能となる WEB ページにすべき。ワードファイルでの申請はやめるべき。ワードファイル等のアップロードを避け、Web 入力のみによる申請とすることで、効率化が図られる。
- 電子申請のフィッシングサイトが既に存在する。市民がフィッシングサイトに誤って入力した場合の対応手順を検討すべき。